AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究集録 (2019.7) 平成30年度:23.

手術室看護師が抱える倫理的ジレンマ

大原 望友紀, 加納 ななみ, 三浦 拓也, 山近 真実

手術室看護師が抱える倫理的ジレンマ

旭川医科大学病院　手術部ナースステーション
〇大原望友紀　加納ななみ　三浦拓也　山近真実
キーワード：手術室看護、看護倫理、手術室看護師、半構成的面接

【はじめに】先行研究では手術室看護師が手術部という組織や他職種・患者との関係性の中で、倫理的ジレンマを抱いていることが分かっている。しかし、具体的な倫理的ジレンマの内容は明らかになっていない。

【目的】手術室看護師が抱えている倫理的ジレンマを明らかにする。

【方法】半構成的面接法を用いた質的記述的研究。対象はA病院手術室看護師46名。1人1回20分程度、参加者の許可を得て面接内容を録音し、逐語化したものをデータとした。

【倫理的配慮】A大学倫理委員会の承認を得た。対象者には目的、方法、研究への参加は自由意思であり、不参加でも不利益がないこと等を説明し同意を得た。

【結果】同意を得られた44名に面接を行い、得られた68事例のうち18事例を倫理的ジレンマ、37事例を道徳的悩み、7事例を道徳的不確か、6事例をその他の4つに分類し、さらにカテゴリー化した。倫理的ジレンマでは「円滑な手術進行を優先した」ことと他の価値観との内容の事例が半数を占め、看護師経験年数別の偏りはなかった。道徳的悩みでは、患者の尊厳や安心・安全を損なう他の医療者の患者対応や医療者との関係に関しての事例が半数を占めた。これらの結果は看護師経験年数3年未満の人に多かった。道徳的不確かは患者へのケア・治療方針に関しての事例が半数を占め、その全てが看護師経験10年以上の人であった。その他は、看護師が実践した看護に後悔がある内容が大半であった。

【考察】倫理的ジレンマに関して看護師は患者の擁護者、代弁者としての価値観と、チーム医療の一員として円滑な手術を遂行する役割から生じる価値観を抱え思い悩んでいたと考える。道徳的悩みに関して、看護師が医療者との関係に悩むのは手術室が治療の現場であることで、看護師が直接的なコミュニケーションをとる相手は、患者より医療者が多いことが要因であると考える。またこれが、3年未満の看護師に多くみられるのは、他の医療者に働きかけたい気持ちがあっても行動化できていないためだと考える。道徳的不確かに関しては、看護師経験を積むことで患者の治療そのものにも関心を向けられるためと考える。

【結論】手術室看護師は倫理的ジレンマだけでなく、道徳的悩み、道徳的不確か、その他の多様な倫理的課題を抱えていた。これらの倫理的課題は他の医療者との価値観の違いで生じているものが多く、互いのコミュニケーションが重要と考えられた。